廃棄物資源循環学会令和６年度シンポジウム250203

一般廃棄物処理分野における
資源循環・脱炭素化に係るシンポジウム

ディスカッション

廃棄物資源循環学会令和6年度シンポジウム250203
一般廃棄物処理分野における資源循環・脱炭素化に係るシンポジウム

趣旨等

[趣旨] 令和5年6月に閣議決定された新たな廃棄物処理施設整備計画では、「2050年カーボンニュートラルにむけた脱炭素化」の視点が盛り込まれ、「循環型社会の実現に向けた資源循環の強化」の視点も追加されました。また、令和6年8月には「第五次循環型社会形成推進基本計画」が閣議決定され、循環経済への移行による持続可能な地域と社会づくり、動静脈連携によるライフサイクル全体での徹底的な資源循環、多種多様な地域の循環システムの構築と地方創生の実現、資源循環・廃棄物管理基盤の強靭化と着実な適正処理・環境再生の実行などへの取組みが始まりました。

令和6年度シンポジウムでは、第五次循環型社会形成推進基本計画の概要及び新たな廃棄物処理施設整備計画における視点等の解説及び一般廃棄物処理分野における資源循環及び脱炭素化に向けた施策、研究について御報告頂いただいたうえで、第五次循環型社会形成推進基本計画の概要及び新たな廃棄物処理施設整備計画を踏まえた一般廃棄物処理分野における資源循環と脱炭素方策について、多角的視点から討議を行うものとします。

[主催] 環境省、廃棄物資源循環学会

[日時] 2025 年2 月3 日（月）13:30～17:00

〔会場〕航空会館（7階大ホール）、オンライン併用のハイブリッド方式で開催

プログラム

講演予定

1. 第五次循環型社会形成推進基本計画～循環経済を国家戦略に～
   近藤　亮太（環境省総務課循環型社会推進室　室長）30分

2. 令和5年度に策定した廃棄物処理施設整備計画等について（今後の一般廃棄物処理施設の方向性等）
   松﨑裕司氏　（環境省廃棄物適正処理推進課 課長）30分

3. ごみ処理広域化・集約化に関する動向と最適化の事例研究
   平井　康宏（京都大学環境安全保健機構環境管理部門 教授）30分

4. 資源循環・脱炭素化に向けた一般廃棄物処理システム指針の新たな役割
   大迫　政浩（国立環境研究所 フェロー）30分

5. 資源回収における自治体連携と再生プラスチック国内循環に向けた先端システムの開発状況について
   今井　麻美（富山環境整備イノベーション推進室　室長）30分

プログラム

パネルディスカッション（60分）参加者（敬称略）:

1. 近藤亮太　（環境省循環型社会推進室長）
2. 松﨑裕司　（環境省廃棄物適正処理推進課長）
3. 平井康宏　（京都大学教授）
4. 大迫政浩　（国立環境研究所フェロー）
5. 今井麻美　（富山環境整備イノベーション推進室長）

大迫　政浩

コーディネータ　酒井伸一（京都高度技術研究所副所長）

パネルディスカッションの論点
（1）資源循環と脱炭素化への制度的展開と先端技術の動向

1. 第5次循環基本計画の到達点と課題
   （近藤室長＆パネラー他）
   ① 5つの重点分野への政策展開見通し
   ② 循環経済への国家戦略と移行加速化パッケージにより、政府の政策リードや予算展開充実からスピード感はみられるか
   ③ 民間事業や社会事業の実現に向けた成果と実装化は得られているか、たとえば資源循環リサイクル拠点への期待
2. 循環経済事業展開への期待
   （今井室長＆パネラー他）
   ① 先見性のある企業展開としての富山環境モデル
      - 資源循環利用、農畜水産業との産業連携、廃棄物管理基盤の統合展開
   ② 循環経済展開に関して、現時点で欧州から学ぶべき点
      - さまざまなプラスチック選別や品質管理アナライザを用いていること、これらの技術の国産展開は可能か

パネルディスカッションの論点
（2）施設整備計画と広域化・集約化の展開

3. 広域化の最適化に関する数理計画的研究

（平井教授＆パネラー他）

① 広域化に関する最適化計算結果の解釈と意義
- 現状1210施設から広域化後の407施設や250施設という結果をどう見るか
- コスト最適とエネルギー最適の結果、違いをどう解釈するか

② 焼却施設の効率化から資源循環への展望に関する計画研究の必要性
- 京都府域の動的最適化で5年間で100～250施設減、これをどう資源循環に活かす？

4. 施設整備計画における広域化・集約化の意義と課題

（松﨑課長＆パネラー他）

① 広域化対応への財政支援は手厚い、その広域化・集約化への効果、見通し

② 令和5年策定の施設整備計画の到達点、基本理念3件は必要十分か

パネルディスカッションの論点
（3）一般廃棄物施設の資源循環・脱炭素化展開への政策展開、次の一手

5. 2007年策定のシステム指針が果たしてきた役割
（大迫フェロー＆パネラー他）

① これまでのシステム指針におけるレーダーチャートや時系列分析など
- ごみ処理基本計画の策定や検証の支援ツールとしての役割

② 新たなシステム指針、広域集約型への指針や技術システムビジョンなど
- 当面は、資源循環に舵を切る分別選別構想に向けた指針としての役割か

6. 家庭系・事業系の循環資源回収利用に向けた分散型回収拠点整備
（松﨑課長、近藤室長＆パネラー他）

① 現在の一般廃棄物処理施設整備計画が果たしている役割
- 施設更新需要に対して財政対応するための広域化・集約化
- 施設整備への明確な支援制度改正通知（2024年3月）

② 分散型回収拠点展開の先行事例と意義
- 上勝町、垂井町、独カッセル市など

おわりに

ご清聴ありがとうございました。

お持ちかえりいただける発想やメッセージが、多くあると思います。次のいい経験や反省を、引き続き、共有できれば幸いです。

主催者の一人として（酒井伸一）